

01 函館巴太鼓

勇壮な音色をとどろかせる港町・函館の魂がこもった和太鼓

函館が誇る郷土芸能の創出を目指して、1969(昭和44)年に経済界や商店街が中心となり、和太鼓の会を結成。力強く打ち下ろす撥(ばち)から放たれるごう音と振動は、目の前に広がる津軽海峡の荒々しい海をイメージします。大正時代から昭和30年代にかけて、北洋漁業の基地として隆盛を極めた頃の活気をよみがえらせたいとの思いが、太鼓に吹き込まれているかのようです。楽曲は函館の風土や歴史をテーマにした激しい曲調のものが多く、“人の心を打つ”をモットーとする打手の思いが叩音となって、聞く人の五臓六腑に染み渡ります。



| | |
|--------|----------------------|
| 問い合わせ先 | 函館巴太鼓振興会事務局・函館商工会議所 |
| 電話番号 | 0138-23-1181 |
| FAX番号 | 0138-27-2111 |
| 編成 | 打手6~8人 |
| 出演時間 | 1回5~25分 |
| 出演料 | 応相談 |
| 備考 | 出演時間や出演料は内容により変動します。 |



地域活性化を使命に誕生した和太鼓芸能を絶やすまいと、次代を担う後継者の育成にも力を入れています。大人で構成するチームの傘下にあるのが、小学校4年生から高校生まだが所属する「函館巴太鼓ジュニア」。日頃の練習では、力の伝わりやすい姿勢やリズム感といった基本技術の確認を繰り返し、元気な掛け声の下で互いの呼吸を合わせます。「見ている人たちの笑顔と拍手をもらえるのが何よりのやりがい」だそうです。

船舶が頻繁に航行する良港として知られる函館湾と、扇状に広がる市街地を日中に上空から見た景色。町の西側に伸びる海岸線がきれいに湾曲しているのが分かります。この形が町のシンボル・函館山を中心に渦を巻く“巴”のように見えることから、函館を象徴する言葉として“巴”という言葉を用いることが多くなり、函館市章に左巴がデザインされているほどです。巴太鼓はそんな地域の風土と郷土愛に育まれています。